

在韓被爆者支援について

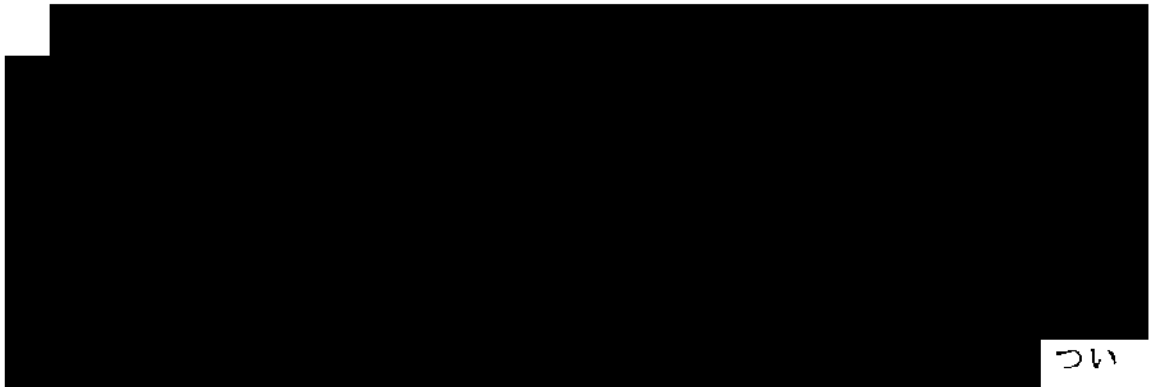
1. 必要性

本件は、日韓間の過去に起因する問題の所謂三点セットの一つとして、盧泰愚大統領の関心も高く、外交ルートを通じて韓国政府より大統領訪日の際抜本的に解決して欲しい旨強い要請あり。当方としては、人道的、歴史的経緯に鑑み誠意を持って可能な限りの協力を行う旨表明してきており（89年9月外相会談）、今次盧泰愚大統領訪日の際には本件につき抜本的解決の姿勢を示すことにより、以後本件を日韓間のイシューとしないようにすることが不可欠

2. 基金の設置

そのため、具体的には韓国国内（大韓赤十字社）に40億円の基金を設置することをもって本件に対する一括かつ最終的決着とし、同基金から韓国国内における将来にわたっての治療費、等を支援することとする（取敢えずの積算別添）。

3. 3年度当初予算への計上



ては、3年度の当初予算に40億円の基金を要求することと致したい。

なお、本支援は韓国（DACリスト対象国）の福祉向上に資するものであるから、ODAとしてカウントし得るので、ODAとして予算要求することとする。（亜北主管、国際機関等拠出金として要求）

4. 首脳会談、外相会談での発言振り

については、来るべき首脳会談、外相定期協議では別紙1. 及び2. のラインで発言すべく財政当局と調整することと致したい。

在韓被爆者問題（外相定期協議での発言振り）

在韓被爆者問題の歴史的経緯及び人道的性格に鑑み、貴国政府の被爆者対策について、我が国としても成し得るところについては誠意を持って当っていきたい。かかる観点から、大統領御来日を契機に、在韓被爆者の方々の治療、健康管理に資するため思い切った方策を取ることが出来るよう、自分として最大限努力したい。